

毎日新聞社主催 公開座談会

<多様化する社会で、主体的に貢献できる人>を育てる私学の教育（第3回）が 開催されました

11月6日(日) 日本赤十字看護大学にて、毎日新聞社主催・日能研協賛「公開座談会」が開催されました。今回のご登壇は麻布中学校 学校長 平秀明先生、日本女子大学附属中学校 副校長 下村由紀子先生です。

2010年からスタートしているこのイベント、切り口は様々ではありますが、常にテーマにしてきたのは本質的な「私学にこそある価値」。

会の時間は14:00～16:00 おおよそ2時間。第1部では、それぞれの先生方から各学校の教育理念や、日常から考えておられる教育について講演会形式で伺いました。両校の先生方の講演では、実際の授業風景のスライドや創業者のお話しなどを通して、長い歴史の中で築かれた教育理念を今の学生が生き生きと引き継いでいる様子が伝えられました。

また、第2部はパネル形式で行われました。次期学習指導要領改訂に向け、世の中でも資質、能力とは何か？ グローバル社会の中で通用する力とは何か？ という議論が活発になっています。そのようなことを背景に「学力とは何か？」またそれに伴う「評価とは何か？」という問いに迫りました。

両校の先生から話されたのは、いずれにしても評価には子ども自身がどんな学びをしていたのかというプロセスが大事であるということです。引き続いて、両校の先生ご自身のご専門である理数教育に迫る質問もありました。印象的だったのは、「数理科目から学ぶことはあるものの、ある特定の教科だけということよりも、どの教科も学ぶ教科として大事であること。その上で、だから偏らずに、理数であれば実物に触れること、体験することが大事だ」と熱弁されていたことです。

パネルディスカッションで取り上げた主な内容は、参加された保護者の方から会場の生の声を拾って進められ、まさにシナリオなしの展開に。

今なすべき生活についてのアドバイスでは、「日常の美しさを感じ、体感する。自分の身の回りに惹かれる心、発見や、感動を大切に。」など、教育の本質に迫るお話に会場の保護者の方々が熱心に耳を傾けている姿が印象的でした。

これから社会はますます多様化します。今の子どもが生きる社会は、これまでに経験したことのない出来事に直面したり、出会ったことのない人たちと協働したりする、不確かで複雑な社会です。主体的な貢献とは、その中で自ら積極的に試行して過去にモデルがない未来をつくりあげるといことです。過去にモデルがない未来を創りあげるとはということなのか、私学は、そんな未来を常に念頭に置きながら、子どもの学び、そして子どもの成長そのものに寄り添う場所であることが濃縮して表現されていた時間でした。

当日の座談会記事は、11月中旬に毎日新聞本誌、毎日小学生新聞にも掲載される予定です。

ご興味がある方は、どうぞ第4回にもご参加ください。次回は本年度最終回となります。

<多様化する社会で、主体的に貢献できる人>を育てる私学の教育（第4回）開催概要

参加校ご登壇の先生： 武蔵中学校・校長 梶取弘昌先生

灘中学校・校長 和田孫博先生

日時：12月4日（日）14：00～16：00

会場：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター 1F ホール1A

JR 総武線、東京メトロ南北線・有楽町線、都営新宿線「市ヶ谷駅」徒歩2分

対象：小学1～6年生の保護者

主催：毎日新聞社 協賛：日能研

後援：日本私立中学高等学校連合会

桜美林大学総合研究機構「教育未来研究プロジェクト」



<本件に関する問い合わせ先>

日能研本部 TEL：045-473-2311/FAX：045-475-0544/e-mail：pr@nichinokenco.jp

